

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

学校名	有田町立大山小学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・保護者アンケートの結果や学校関係者評価から、本校の教育活動への関心や期待の大きさが分かる。特に保護者アンケートでは、「確かな学力」「心の教育」「体験活動」などで95%を超える高い評価をいただいた。保護者・地域の期待に応えるべく、丁寧に細やかな指導や支援を続けていきたい。 ・学力向上や生活指導等にはやや課題も見られたので、さらに力を入れてい。共通理解・共通実践できる体制を、全職員で整えていきたい。 ・本校教育目標を柱に、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成をめざし、引き続き児童一人一人を笑顔にする教育を進めていきたい。また、地域に開かれた学校として、コミュニティ・スクールの利点を生かし、ICTを活用しながら適切に情報を発信し、地域に学ぶ教育の推進に努めたい。	
--------------------------	---	--

2 学校教育目標	「おいに学び やさしく まっすぐ伸びる」大山っ子の育成 ～「知・徳・体のバランスのとれた児童」の育成～
----------	---

3 本年度の重点目標	1 学力の向上…①校内研究・小中連携による、自ら学び続ける児童生徒の育成(1年次)～自分の考えを持ち、表現する力を伸ばす算数科学習指導の工夫～②タブレット端末の効果的な活用 2 心の教育の充実…①人権・和育教育の推進…自尊感情を向上②「特別の教科道徳」と特別活動を絡めながら行う教育活動の充実③いじめの未然防止、不登校傾向への対応④児童一人一人の特性に応じた教育活動の充実と保護者や関係機関との連携 3 健康安全教育の充実…①体力の形成と運動能力の向上を図る運動環境の充実②「危機に強い学校」の構築 4 開かれた学校づくり…①地域の教育力を生かした教育活動の充実②学校評価の活用によるPDCAサイクルの充実 5 特別支援教育の充実…①児童一人ひとりの特性に応じた教育活動の充実と保護者や関係機関との連携②誰もが分かりやすい支援の工夫③特別支援教育への理解と啓発活動の推進
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

重点取組		具体的取組		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	実態結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○自分の考えを持ち、表現する力を伸ばす、主体的に学ぶ授業の創造	○学力向上対策評価シートで共通理解した授業改善の取り組みを行った教師85%以上	A	・CRTの結果の見直しを校内研修で行い、児童の成果と課題を分析し、次年度に向け授業改善できる部分を実践していった。 ・「考えを持ち、表現する力」について校内での研修を行う。	A	・学力の向上が課題だと思っていたが、学力調査の結果を見ると学力が上がってきていると思われる。今後も学力向上の取組に力を入れてほしい。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分と他人との違いを認め、「自分や友だちのよさを見つけることができる」と感じることができる児童80%以上	A	・「Q-U」を分析し、学級の実態を捉え、個に応じた指導を充実させる。	A	・6年生を送る会等、集会活動での生き生きとした児童の表情から、豊かな心が育てられていると感じられる。上級生、下級生の関係も良好であると思われる。	
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○日頃から児童一人一人の実態を把握し管理職、担任・保護者・SCやSSWとの連携を図る。	A	・毎月「心のアンケート」を行い、いじめの早期発見・予防に努める。 ・学級、学年の実態把握に努める。	A	・SNSによるいじめ等、いじめの内容が多岐に渡り、学校の対応も大変だと思いが、今後も早期発見・予防に努めたい。 ・不登校・不登校傾向については、状況の改善が望まれる。	
●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「あなたのまわりの人はあなたのよさを認めてくれている」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	A	・お互いの良い所を伝え合う活動を通して、自己肯定感を高める。 ・キャリアパスポートを活用し、行事や学期ごとに短期目標を設定させ、自己評価を行うことで、目標に向かう心育てる。	A	・取組状況は適正で、評価結果も妥当である。	
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童70%以上 ②本校生徒指導重点目標「挨拶」「たてわり掃除と集団登校」「学校のきまりを遵守」ができた児童80%以上 ③「健康に良い食事をしている」児童90%以上	A	・毎日、昼休みに外遊びを促す放送を行う。 ・定期的に縦割り遊びを行い、異学年で運動を含んだ遊びで体を動かす。 ・「なわとびタイム」や「マラソントime」を設定し、カードを与えることで運動習慣や目的意識を高める。 ・生活めあての内容を、毎月の重点指導内容に位置づけたり、良好目標については随時承認・賞賛したりする。 ・給食時間に食育に関する放送を行うとともに、「おにぎり弁当の日」を設定し、家族に「食」を考える機会を設ける。	A	・縦割り班活動が充実しており、特に6年生がリーダーシップを発揮して掃除や遊びに取り組んでいる。集団登校についても概ね取り組みているが、いらかし課題も見られるので引き続き指導をお願いしたい。 ・持久走大会では、どの児童もよく頑張っていた。インフルエンザの影響で全校での大会は実施できなかったが、最後まで諦めずに走る姿が素晴らしい。休休みに外へよく遊んでいるようである。これからも体力づくりに励んでほしい。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	A	・平日は18時までにはほぼ全員が退勤し、定時退勤日(毎週金曜日)は17時までに、全員帰宅の実施を目指す。 ・授業月時間外勤務40時間以内を実施する。	A	・概ね目標を達成できているようなので、評価結果も妥当である。 ・職員室の雰囲気や良い、先生同士で明るく話しかけることができるのは好ましい。	
●特別支援教育の充実	○個に応じた支援体制の充実と教員の専門性、認識の向上	○「特別支援」に関する理解が深まった。」と回答する教員を80%以上とする。	A	・特別支援教育に関する研修を実施する。 ・支援を要する児童の情報共有、支援会議を実施する。 ・外部専門機関と連携を密にする。	A	・「これからの、児童一人一人に応じた支援を続けてもらいたい。」	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
〇「開かれた学校」づくりの推進	〇保護者・地域との連携と人的・物的資源の活用	〇「学校は、よく情報を伝え、保護者の相談や要望に誠実に対応している」と実感する保護者85%以上 〇「地域の学びがぐとでも深まった」と回答する児童80%以上	・学校HPの充実させ、学校・学級・保健などの通信を定期的に発行する。 ・コミュニティ・スクールの特性を生かし、学校運営評議員と連携しながら地域学習や体験活動を充実させる。	A	・「学校は、よく情報を伝え、保護者の相談や要望に誠実に対応している」と回答した保護者は88%であった。今後も学校HPやアプリ等を活用し、積極的に保護者と地域と連携をとってきたい。 ・「地域の学びがぐとでも深まった」と回答した児童95%であった。歴史探訪や木工教室、棚田米づくり等、地域の特色を生かした学習も今後も継続し、地域を誇れる児童の育成を目指したい。	A	・他校と比べても、大山小学校はコミュニティ活動が大変充実している。今後も歴史探訪や木工教室、普遊びなど、コミュニティ・スクールの利点を生かした活動を継続し、児童によりよい学びの機会を与えていきたい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・各項目の数値目標は達成できたが、学力向上や不登校支援等にはまだ課題が見られる。アンケート回答や学力調査等から見られる課題を具体的に分析・検討し、全教職員で共通理解・共通実践を進めていきたい。 ・本校教育目標を柱に、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成をめざし、児童一人一人を大切にす教育を進め、実態に応じた学力の向上、道德教育の推進、健康・体力作り等にさらに力を入れていきたい。 ・地域に開かれた学校として、コミュニティ・スクールの利点を生かし、適切に情報を発信し、地域に学ぶ教育の推進に努めたい。
----------------	---